

牛久：学校周辺に見る自然

第12号 ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2021年5月30日発行

＜ 初夏しよかのみずべ公園 ～（続）エゴノキに集まる虫たち ＞

みなさん、こんにちは。ひたち野うしく小4年生とのみずべ公園から10日後の5/20、今度は3年生と歩いてきました。11号で紹介したエゴノキしょうかいは、すでに咲き終えてしまったものもあれば、ちょうど満開まんかいの木もありました。4年生と歩いたときには見つからなかった生きものも多くいましたので、先に続編として紹介したいと思います。



あま かお ただよ まんかい
甘い香りを漂わせ、満開のエゴノキ。

こちらが、エゴノキ。白く小さな、下向きの花をたくさんぶら下げています。下に終わった花がたくさん落ちている木もありましたが、ちょうど満開まんかいの木は甘い香りを漂ただよわせ、虫たちを誘さそっていました。下向きにぶら下がる小さな花なので、しっかりしたあしでつかまれるハチやハナムグリなどが多く見られましたね。



みつす 蜜を吸うクマバチ(左上)、コマルハナバチ(右上)、セイヨウミツバチ(左下)。みつす 蜜や花粉をなめるコアオハナムグリ(右下)。



花粉をなめるヒラタアブの一種(左)と、葉にかくれるヤマシロオニグモのメス(右)。

雄しべや雌しべにつかまって、花粉をなめているヒラタアブもいました。一見、ハチのようなもようをしていますが、複眼が大きくて触角が短く、羽が2枚なのでハナアブのなかまです。

近くの葉には、シートを張ってヤマシロオニグモがかくれていました。「腹のもようが顔みたい」と言っていた子がいましたね。



しだいに大きくなり始めたエゴノネコアシフシ(左)と、茶色くなって残る、昨年(さくねん)のエゴノネコアシフシ(右)。

エゴノキの枝にはバナナの房のような形をした虫こぶがついていることがあります。名づけた人はこれをネコの足先に似ていると考え、「エゴノネコアシフシ」という名前がつけられました。一見、実のように見えますが、夏に大きくなって割れると、中からたくさんのアブラムシが出てきます。そう、これはアブラムシがエゴノキに作らせた虫こぶなのです。



アブラムシがいるということは、それを食べるテントウムシもいるはずですね。いました、さなぎです。そして、4年生と歩いたときにもエゴツルクビオトシブミのゆりかごがついていましたが、今回は成虫(せいちゆう)のメスも見つけました。こんな小さな体で、葉を切って巻いていくのです。中の卵(たまご)は、この後どうなるのでしょうか？【理科支援員：宮内】



エゴツルクビオトシブミのゆりかご(左)と、メスの成虫(せいちゆう) (右2枚)。ゆりかごの中には、卵(たまご)が1つずつ入っている。